

市民文芸

短歌

令和五年度
阿南市文化祭秋季短歌誌上大会選

入選

呼び出され深夜の職場に灯を点けて電話を守る
こと始めたり 中山 善嗣

縫い上げて吊られしままのワンピース今は仏間
の亡母の小部屋に 竹田 雪湖

ノンアルのビールで亡夫と乾杯す遠くの町の花
火を見つつ 松江 敬子

ズッキーニ店に並べば本物の夏が来たのだ炒め
るが良し 森岡 政子

鉄道の博物館でポーズとるけん君どれも「トー
マス」と呼び 亀島賀陽子

米離れ「米さえあれば生きられる」そんな言葉
も今は昔に 高尾 久枝

畑ごと遅速をつけて植ゑたるか葱吹く風に濃淡
のあり 廣瀬 艶子

人類の滅んだあとを思わせる人參ハウスの白き
田園 吉永賀代子

雷鳴は彼の世の父のお叱りか彼岸も過ぎしお墓
へ急ぐ 小畑 定弘

俳句

阿南市俳句連合会選

あたたかや子を待つ遊具休園日 東明 陽子

タクト振る獅子の生涯春北斗 駒木 幹正

作務僧のはづして廻る注連飾 末岐 美子

大寒や炭火で魚焼く匂い 近藤ヤス子

雲梯をのぼりゆきたる春の服 中分 明美

苦難能登曆めくれど春はまだ 鳥海 勇二

用水に動くもの無き余寒かな 吉崎 晶子

一列に吹かるるしだれ梅の赤 金本ひろみ

鳥一声渡る谷間や梅ひそり 張本 雅宣

節くれし古木の梅や咲き初める 柏木 暁代

川柳

阿南川柳会選

枯れるには中途半端な古希間近 神野 鈴代

山里の輝く小川昇り龍 佐藤つたえ

相槌に釣られ内輪の事も言い 高木 旬笑

会うたびにドキリとさせる憎い人 多田紀久代

転んでも反省できる杖がある 橋本 征介

板挟みにあいうろたえている私 二階千代美

一步引くゆとりまあるく生きるこつ 野村 敏子

一般応募

補聴器のエール会話も良く弾む 島尾美津子

歳の数豆を食べんと間違える 泰地 重美

安心して頑張る意欲少し萎え 武田 敏子

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社選

春日郊行

高橋 静雄

陽和三月夕陽遅
芳草青青麗日宜
蝶舞花紛雲雀囀
春風駘蕩步吟詩

陽和三月 夕陽遅く
芳草青青 麗日宜し
蝶舞い花紛れて 雲雀囀る
春風駘蕩 歩して詩を吟ず

驟雨

大野シゲ子

午時驟雨似懸泉
霹靂電光驅天上
暫閉蝸居遲新霽
火輪何處樹雲煙

午時の驟雨 懸泉に似たり
霹靂電光 天上を駆く
暫く蝸居を閉じて 新霽を遅つ
火輪何の処ぞ 樹は雲煙

鳴門海峡

折野 博子

碧海茫茫一望披
奔流激浪大橋涯
驚看奇絶盤渦壯
宛宛龍神狂態時

碧海茫茫として 一望披け
奔流 浪を激す 大橋の涯
驚き看る奇絶 盤渦の壮
宛宛たる龍神 狂態の時

